

平成 21 年 6 月 9 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520312
 研究課題名（和文）ベルギー・ルヴァンラヌーヴ・カトリック大学所蔵古典籍についての研究
 研究課題名（英文）A Bibliographical Studies about the Japanese ancient books collection of The Louvain la Neuve University Library in Belgium

研究代表者
 山口 謠司（YAMAGUCHI YOJI）
 大東文化大学・文学部・准教授
 研究者番号：00286915

研究成果の概要：ベルギー王国ルヴァンラヌーヴ・カトリック大学図書館に所蔵される日本古典籍は第一次世界大戦後まもなく昭和天皇によって寄贈されたものである。このコレクションは、もとルヴァン大学に所蔵されていたものが、一九七四年のルヴァン大学紛争の際に、新しく作られたルヴァンラヌーヴ・カトリック大学図書館の所蔵になったものである。筆者はこの研究において、昭和天皇の寄贈の経緯と、この寄贈に当たってどのような人物がコレクションの収集を行ったかについて調査し、かつ詳細な書誌目録を作成するものである。

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：文献学

科研費の分科・細目：書誌学

キーワード：目録学・日本古典籍・海外流出の文献・昭和天皇寄贈

1. 研究開始当初の背景

ベルギー王国ルヴァンラヌーヴ・カトリック大学図書館に所蔵される日本古典籍は第一次世界大戦後まもなく昭和天皇によって寄贈されたものである。このコレクションの目録を作成し、かつこの寄贈に当たってどのような人物がコレクションの収集を行ったかを明らかにしようとした。

2. 研究の目的

ベルギー王国ルヴァンラヌーヴ・カトリック大学図書館所蔵日本古典籍の書誌を可能な限り詳細に記述することによって、どのような書籍が寄贈されたかを明らかにするこ

とをもって第一義とする。

また蔵書印などから各書物の来歴と収書の来源を知る。

また、この研究に当たっては、ルヴァン大学の創立から第一次世界大戦によるドイツ軍の攻撃までにどのような書籍があったのか、その損失がヨーロッパの文化界にどのような影響を与えたのか、さらに昭和天皇（当時皇太子）による日本古典籍の寄贈が、どのような意義をもっていたのかについても触れる。書物を通じた国際関係史である。

3. 研究の方法

詳細な書誌については国内に存在する同

版本を渉猟し、これを比較する。また蔵書印などによって各書籍の旧蔵者を調査し、これらが寄贈されるに当たって誰がこの事業に関係したかなどを研究する。

4. 研究成果

ベルギー王国国立ルヴァン大学は、1425年に、マルタン・ヴァンド・ドューク・ジョン四世によって創設された。人文学者エラスムス、地図で知られるメルカトルなど著名な学者を輩出した大学として知られている。

ところで、1914年8月25日、ベルギーの北部にあるルヴァンはドイツ軍の攻撃によって破壊された。ルヴァン市ナミュール通りにあった大学図書館は、ドイツ軍の放火によって数日にわたって燃え続けたと言われる。

1913年に行われた図書館の統計によれば、本図書館には、23万冊の蔵書があったと記録されているが、これらはすべて灰燼に帰した。

ルヴァン大学は17世紀に作られた大学で、ここには、1770年代のイエズス会修道院付属図書館の閉鎖にともない、多くの写本やインキュナブラが所蔵されていたという。

最も有名な書物としては、ヴェザリウスの『人体構造論』、15世紀の写本集であるコルネウス・ネポスの『名士伝』、レニール・フォン・リュティヒの12世紀写本『著作集』、トーマス・ア・ケンピスの13世紀写本『聖リデヴィギス伝』などである。

さて、ルヴァンがドイツ軍によって破壊されたという知らせは、新聞によって大きく報道された。

当時、スイスにあったロマン・ロランはこの破壊の報を受けて怒りと驚愕に満ちた日記を認め、またドイツの軍事行動に賛辞を送ったゲルハルト・ハウプトマンに対して抗議の手紙を書いている。

「あなた方は敵に対して戦争をしているのですか、それとも人間精神に対してですか。(中略)この犯罪、結局はあなたの身に返ってくるこの犯罪に対して、全身全霊をもって反対の声を上げるよう要望します」

また、英国では、大学、学術アカデミー、各種学会、図書館、博物館が共同で『ルヴァン』と題した声明文を発表した。

「豊かな伝統を誇る尊敬すべきドイツ文化の代表者、その指導的な組織に属する人々、その人々と私たちは、これまで極めて友好的な関係を維持してきたが、その人々に対して、私たちは次のことを訴える。軍部のこうした恣意的な破壊行動が二度と起きることがないように、精神的・道徳的影響力を行使せんことを」

しかし、こうした抗議に対してドイツは同年10月11日にドイツの著名な文化人93名の書名を添えて、回答を発表した。

「我がドイツ軍がルヴァンに対して残酷な行動を取ったということは真実ではない。一部の住民が、駐留する我が軍に対して非常な手段で襲撃を行ったために行われた報復にすぎない。敵国の人々によって表明された偽善的な言説によれば、我が国のいわゆる軍国主義に対する戦いは、我が国の文化に対する戦いではないというが、これは事実ではない。もしドイツに軍国主義がなければ、ドイツの文化はすでに地上から滅びていたに違いないからである。ドイツ軍国主義は、ドイツ文化の擁護のために、ドイツの文化から生まれてきたものなのである」

こうして、「精神の世界大戦」と呼ばれるドイツ軍国主義に対する、ルヴァン大学図書館復興運動が展開されることになる。

はたして、このことに最も寄与したのは、パチカン市国大使のポストにあったルヴァン大学公法講座の教授であったジュール・ヴァンデンヘーヴェルである。

彼は、ブリュッセル内閣で法務大臣を務め、その後も無任所大臣として閣僚に名を連ね、ドイツの開戦への最後通告に対する回答を起草した人物である。ドイツのベルギー占領と同時にフランスのルアーヴルに移り、フランス政府との仲介役を務めパチカンにあった。

ここで、パチカン市国図書館長アチル・ラッティの知遇を得て、フランス、イタリア、スペイン、イギリス、アメリカの協力によってルヴァン大学図書館復興を働きかけたのである。

そして、図書館の再建が、1925年11月に迎える大学創立500周年記念式典に間に合うようにとの計画が立てられるようになったのである。

さて、我が国においては、1921年当時皇太子であった裕仁親王が、天皇としては初めて海外視察を行われた。

6月20日にルヴァンを訪問された天皇は、すでに1919年4月、ベルギー公使安達峰一が、松井駐仏大使を通じて、内田康哉外務大臣に宛て、ルヴァン大学図書館復興を中心とした「ルヴァン国際事業」への参加が打診されていたこともあって、ここに裕仁親王からの御下賜金が与えられることになったのである。

1921年11月、ベルギー大使安達は、ルヴァン大学学長、ラドゥーズの訪問を受け、「最も希望するところは日本関係図書なり。ただし英仏語の分は重複を避けるため、ご購入前一応目録を拝見したし。また出来れば、日本文に關する解説模型等を寄贈願いたく、これを付屬小博物館に陳列し一般啓蒙の材料とすべし」という文書を受け取っている。

日本では、こうした要請に基づいて、和田万吉を中心に1924年の初めに東京美術学校

に事務局を置いて、第一回会議が7月27日に行われた。

図書の寄贈は、図書寮、早稲田大学、帝国大学からは逐次刊行物の寄贈が行われることが決定し、また住友・岩崎・三井・古川・渋沢などの財閥から6万円以上の寄付が行われた。このうち、3万6千円が図書購入に充てられることが決定した。

寄贈された書物は、合計3202部13682冊、これに版木10枚、花瓶一個。

これらは1924年8月から1926年8月まで六次に分けて送付されたという。

寄贈された書物の書誌の例を挙げて示せば以下のようなものである

18F11

あこうしじゅうしちしでん

Ako shijushichishi den

赤穂四十七士伝2巻

青山延光著

嘉永4(1851)刊(江戸、和泉屋金右衛門等)

大2冊

*巻末書肆「京、出雲寺文治郎、村上勘兵衛 / 大坂、河内屋善兵衛、伊丹屋善四郎 / 江戸、須原屋茂兵衛、山城屋佐兵衛、須原屋新兵衛」

44E15

あんせいごねんつちのえのうまのてんぼう
じんいんげんれき

Ansei gonen tsuchinoe uma no tenpo jin'in
gen reki

安政五年つちのえうまの天保壬寅元暦

中北外記編

安政4(1857)刊〔伊勢神宮蔵版〕折1帖

44E15

あんせいさんねんひのえたつのてんぼう
じんいんげんれき

Ansei sannen hinoe tatsu no tenpo jin'in
gen reki

安政三年ひのえたつの天保壬寅元暦

瀬川舎人編

安政2(1855)刊〔伊勢神宮蔵版〕折1帖

44E15

あんせいしちねんかのえさるのてんぼう
じんいんげんれき

Ansei shichinen kanoe saru notenpo jin'in
gen reki

安政七年かのえさるの天保壬寅元暦

箕曲主水編

安政6(1859)刊〔伊勢神宮蔵版〕折1帖

44E15

あんせいよねんひのとみのてんぼう
じんいんげんれき

Ansei yonen hinoto no mi no tenpo jin'in
gen reki

安政四年ひのとのみの天保壬寅元暦

箕曲主水編

安政3(1856)刊〔伊勢神宮蔵版〕折1帖

44E15

あんせいろうくねんつちのとのひつじのてん
ぼうじんいんれき

Ansei rokunen tsuchinoto no hitsuji no
tenpo jin'in rek

i 安政六年つちのとのひつじの天保壬寅元暦

瀬川舎人編

安政5(1858)刊〔伊勢神宮蔵版〕折1帖書名

18F14

あんぷくずかい

Anpuku zukai

按服図解1巻大田晋斎著

文政10(1827)序刊・後印(京、藤井文政堂<
山城屋佐兵衛>)

大1冊

18E3

いけばなまつのしづく

Ikebana matsuno shizuku
(古流)生花松の志津玖(外)1巻理恩著
嘉永5(1852)序刊(無刊記/無書肆)大1冊
*「松茂齋」「理登之印」

18B9
いせものがたりしゅうほしょう
Isemonogatari shu ho sho
伊勢物語拾穂抄5巻
北村季吟著
延宝8(1680)刊(京、藤野九郎兵衛)大2冊
*「三多」印(2種)(岸本由豆流旧蔵)[江戸中期]朱引、朱点あり。

18F8
いっかくさんこう
Ikkaku sanko
一角纂考2巻
木邨孔恭著
天明7(1787)序刊(京、銭屋万助等)大1冊
*「春日氏印」、巻末に「皇都書肆、袋屋佐太郎板行書目」一丁あり。

21B12
いもひやくちん
Imo hyakuchin
甘藷百珍1巻
珍古楼主人
文化13(1816)刊(大坂、塩屋喜助等)半1冊
*「太華山房蔵書」(高橋太華旧蔵)印。

21B16-17
うじしゅういものがたり
Uji shui monogatari
宇治拾遺物語(目録)15巻
万治2(1659)刊(京、林和泉掾)半15冊
*表紙に「香果園所蔵」の蔵書票を添付。

18C5
うらのしおかい
Ura no shio kai
浦の志保貝3巻
熊谷直好作、三井宗之編
弘化2(1845)序刊・[明治]印(大阪、奎運堂
倉沢栞七)大3冊
*「巻末に大阪、奎運堂倉沢栞七の広告」一丁あり。

18C
うらのしおかいしゅうい
Ura no shio kai shui
浦の塩貝拾遺5巻
熊谷直好作、三井宗之編
安政3(1856)序刊(無書肆名)大5冊

18A12
うんぴょうざっし
Unpyozasshi
雲萍雜誌4巻
柳里恭著
天保14(1843)刊(江戸、英屋文蔵等)大4冊
*「長木清吉」印

21B4
えどすなごおんこめいせきし
Edo sunago onko meisekishu
(新撰)江戸砂子温故名跡誌6巻 附「続」
5巻
菊岡沾涼著
(新撰)(続)享保17(1732)刊、(附録続)享
保20(1735)刊後合印(江戸、若菜屋小兵衛)
半11冊
*正編にのみ「黙齋蔵書」朱印(栗田享二郎
旧蔵)。

えほんおぐらのにしき

Ehon ogura no nishiki

絵本小倉錦(外)5巻

〔奥村政信〕画

[江戸後期]刊(京、糸舎弘昭軒蔵版)半5冊

*巻末に「糸舎弘昭軒蔵版絵本目録」半丁あり。「黒川書斎」「黒川真道蔵書」

52C12

えほんこうきょう

Ehon kokyo

絵本孝経2巻

高井蘭山著、葛飾北斎画

嘉永3(1850)刊(江戸、須原屋新兵衛等)半2冊

21C10

えほんさきがけ

Ehon sakigake

(和漢)絵本魁(封面)初編1巻

葛飾北斎画

天保7(1836)刊(江戸、北島順四郎等)半1冊

*巻末に江戸、北島順四郎「天保七丙申年正月発行」広告一丁。「大綱濱宿 嶋幸」(墨印)。

18E15

えほんすみぐさ

Ehon zumigusa

絵本須見艸1巻

月岡丹下画

宝暦14(1764)刊(江戸、吉文字屋次郎兵衛等)大1冊

*巻末に「女中日用可翫書目録」一丁あり。「明治十四年六月二日画禅室主」の墨識語。

21B14

えほんそなれまつ

Ehon sonarematsumatsu

絵本磯馴松(外)2巻

西川祐信画

元文3(1738)刊(京、河南四郎右衛門等)合半1冊

*「野宮書印」、全編に手彩色。

以上、例を示したが、現在、書誌情報などさらに詳細を記した目録を作成し、『ベルギー王国ルヴァンラヌーヴ・カトリック大学図書館所蔵日本古典籍目録』として刊行の準備を行っている。これによって、どのような日本古典籍がベルギーに存するかが明らかになると同時に、ベルギー王室と我が国天皇家との関係、また書籍を通じた第一次世界大戦後の国際関係に新たな視点を投じるものと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

山口謠司、「大秦景教流行之碑 1625年ラテン語訳と典礼問題について」、『面向世界的東方思想 中日韓三国学術研討会』、2007年、山東大学、pp.141-pp154、査読無

山口謠司、「『経籍訪古誌』という奇跡」、『アジア遊学(No.99)』2007年、勉誠出版、pp187-pp189、査読無

山口謠司、「老子道德経二巻」、『アジア遊学(No.102)』、2007年、勉誠出版、pp192-pp194、査読無

山口謠司、「論語註疏解経二十巻 北宋槧本 楓山文庫蔵」、『アジア遊学(No.105)』、2007年、勉誠出版、pp212-pp214、査読無

山口謠司、「字書の王様 『玉篇』」、『アジア遊学(No.105)』、2008年、勉誠出版、pp199-pp201、査読無

山口謠司、「富山房の『漢文大系』」、『アジア遊学 漢籍と日本人II』、2008年、勉誠出版、pp106-128、査読無

山口謠司、洲脇武志、石川薫(編訳)、『中国文献学史述要』 魏晋南北朝隋唐時代の類書』、2007年、『大東文化大学漢学会誌』第46号、pp.145-174、査読無

山口謠司、洲脇武志、石川薫(編訳)、『中国文献学史述要』 宋代の歴史文献の校勘について』2008年、『大東文化大学漢学会誌』第47号 pp.136-168、査読無

〔図書〕(計4件)

山口謠司、『書いて楽しむ論語 えんぴつで味わう漢字の世界』、2007年、小学館、224p

山口謠司、『日本語の奇跡 アイウエオと いろは の発明』新潮新書、2007年、新潮社、186p

山口謠司、神鷹徳治、静嘉堂文庫所蔵北宋版『白氏六帖事類集』、古典研究会叢書漢籍之部40、2008年、汲古書院、368p

山口謠司、神鷹徳治、静嘉堂文庫所蔵北宋版『白氏六帖事類集』、古典研究会叢書漢籍之部41、2008年 汲古書院 376p

6. 研究組織

(1)研究代表者

山口謠司 (YAMAGUCHI YOJI)

大東文化大学・文学部・中国学科・准教授
研究者番号：00286915

(2)研究分担者

(3)連携研究者